

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談含む）
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> • 問題行動数は、36件発生した。（件数だけでは去年の3倍） LINEやInstagramなどSNSへの写真や動画の登校、書き込みなどインターネット関係の問題が多発したため、関係者が増加し、発生件数も大幅に増加した。 • 交通事故数は、今年度は10件(昨年比+4)。（自転車乗車中8件、自動車同乗中2件） 登校時の発生率が高く、自転車側も自動車側も時間に余裕を持ち、安全に登校できるよう今後も呼びかけが必要である。 • 頭髪や身だしなみについては、基準を見直し、全職員で指導にあたることができた。 夏休み中に頭髪をさわる生徒が数人発生(主にパーマ)。親がパーマを容認する傾向があり、校則遵守のためには家庭の理解と協力は不可欠であることをご理解いただくよう今後の呼び掛けていく必要がある。 • 「8時30分には完全登校」とし、遅刻減少を目指した。ほとんどの生徒は、8時半登校ができるようになった。ただ、数名の固定メンバーが年10日程度遅れた。 遅刻3回目以降は1回遅刻するごとに、1回「朝の挨拶運動」へ参加させ、生活習慣の改善と挨拶の大切さを学ばせた。 • 今年度より、携帯・スマートフォンの使用時間を8時15分から15時30分までを禁止とした。 昼休みに使用する者が数名おり指導した。 今年度は、LINEやInstagramなどSNSへの写真や動画の投稿件数が増加し、それを見た第三者からの報告で問題行動と思われる事案が発見された。当人同士は、さほど問題視していない状況だが、第三者から見るといじめや問題行動と捉えられる内容であり、今後益々情報モラル教育の重要性が増してくると思われる。 • 生徒指導の進め方については、入学式や育友会総会等において学校の指導方針を保護者に伝えるとともに、HPや配布物により理解していただいている。 • 教育相談については、教育相談係、養護教諭を中心に全職員で当たる体制ができてきた。更にスクールカウンセラーによるカウンセリングや教職員への校内研修など「心の教育」に対する意識が高揚されてきた。 • 平成30年度の30日以上欠席者は8人。 転学者は1年生男子1名、2年生男子1名、女子1名、3年生女子1名の4人。 休学者は1年生男子1名のみ。

4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自己指導能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間励行と明るい挨拶の実践 ・ 問題行動の未然防止、早期対応の徹底 ◇規範意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 端正な身だしなみ ・ 交通ルールの遵守とマナーの習慣化 ・ 関係機関等との連携 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒部会、企画委員会、各学年会、職員会議、各種委員会などを通じて、全職員の共通理解を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の遅刻指導。保護者・MSリーダーズによる挨拶運動（毎月1日と15日）・教育相談週間（年2回）の実施 (2) 学期はじめの再登校指導・年間を通してのイエローカードの実施 (3) 自転車点検・交通講話・育友会と連携した朝の交通指導、夜間防犯のための反射板の生徒への配布 (4) 揖斐郡内の小中との連携、他の高校との連携、必要に応じた警察との連携 (5) 教育相談系の活用・スクールカウンセラーの活用・スペシャリストサポート事業等の活用・専門機関との連携	(1) 欠席、遅刻者数の推移・問題行動、いじめの認知件数の増減。 (2) TPOに応じて、端正な身だしなみができているか。イエローカードの配付数。 (3) 交通事故件数の増減、不審者被害の増減。 (4) 必要に応じた情報の共有ができているか。 (5) 不登校生徒の増減。 (6) 保健室利用者（教育相談に関するもの）・相談室利用者の増減。（ただし、これについては減少すればよいというものではない。早期段階で相談でき、解決できる状況を常に作っておくことが重要と考える）	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導担当者、副担任を中心として、全職員が登校時に挨拶・遅刻指導を実施した。遅刻が5回以上になった生徒にはボランティア活動を課すようにした。 ・ 教育相談、i-check、迷惑調査を通して、気になる生徒や問題を抱えた生徒に接しながら「考え、自己決定させる」指導を実施した。 ・ 平成25年度より年間を通してのイエローカードによる指導を継続実施した。頭髮、スカート丈、ボタンなどの身なり指導、また、携帯・スマートフォンのマナー違反に対する指導など一週間の継続指導を課した。 ・ 4月(春休み中)に業者による自転車点検を実施。 ・ 5月、揖斐警察署(交通課長)による交通講話、スタントマンによる実演指導を実施した。 ・ 育友会と連携し、月1回朝の交通指導を実施した。また、危険箇所の見直しによる登下校のルート変更を実施した。 ・ 揖斐郡内小中高生徒指導連携強化委員会・学校警察連絡協議会への参加と情報交換、学校・警察とのサポート制度の活用。 	① 全職員による挨拶、遅刻指導ができたか。 ② 職員間で共通理解を持ち、i-checkや迷惑調査を受けての迅速な対応ができたか。30日を超える不登校生徒数の推移。 ③ TPOに応じた端正な身だしなみができているか。 ④ 交通事故が減少したか。 ⑤ 安全を意識した自転車の乗り方ができているか。 ⑥ 保護者の協力が得られているか。 ⑦ 必要に応じて、関係機関等と連携し、効果を上げることができたか。	A B C D A B C D

<ul style="list-style-type: none"> 6月に揖斐警察署(生活安全課長)より、情報モラルに関する講話を実施。 11月大学教授を講師に招き、「スマートデバイスの利便性と危険性について」講演会を実施。 <p>インターネットの危険性についての学び直しを実施した。</p>	<p>⑧ 情報モラルについて、正しい知識を得られているか。</p> <p>⑨ 自分が所有しているスマートフォンの使用方法について、高校生としてのルールを守った使用をしているか。</p> <p>⑩ SNSへの写真や動画の投稿については細心の注意を払い投稿しているか。</p>	<p>A B C <input checked="" type="checkbox"/> D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○平成25年度より、身だしなみ指導の方策として、イエローカードを導入した。違反者には、5日間該当教員のサインをもらうという方式を継続した。それにより、女子のスカート丈や、男子のズボン等の身だしなみは、大幅に改善された。「着こなし講座」を実施し、規定違反だけでなく、しっかりとボタンを止める、リボンの結び方など着こなしについての意識の向上を図った。</p> <p>○昨年同様に、携帯・スマートフォンの使用制限をしたが、情報モラル違反が大幅に増加した(ネットパトロールでの違反者は0)。LINEやインスタグラムなどSNSへの写真や動画の投稿によるトラブルが急増し、校内での使用制限だけでは食い止めることができない状況である。家庭の協力なしでは、今後も情報モラルに関するトラブルは増加するばかりであると予測される。</p> <p>○全国的に交通事故が4月、5月に多発していることを受け、平成29年度より4月、5月を交通安全強化月間とし、育友会との合同での交通指導を月2回行うなど、生徒、地域へ積極的に呼びかけている。</p> <p>▲地域からの要望や苦情が減少した。数件の苦情は、登下校時の生徒の交通マナー違反等に関してのものであった。登校時、下校時に職員が率先し、校外の見回りを定期的に行った成果だと思われる。</p> <p>▲平成29年度、(財)日本交通管理技術協会より「自転車通学安全モデル校」として推薦を受けた。「自転車通学安全モデル校」に恥じないよう徹底した交通マナー向上を呼び掛けた。「第2回西濃地区 高校生による自転車大会」では、昨年に引き続き『総合優勝』を果たした。</p> <p>▲年々、教育相談を必要とする生徒が増加しており、それに伴い教育相談室登校も増加してきているが、教育相談室に常駐する教員がいない為、養護教諭に負担がかかっていた。昨年度後半より、教育相談室登校者に対して、各学年会で担当を決め、指導にあたった。スクールカウンセラーのカウンセリング(スペシャルサポート事業を含む)による的確なアドバイスで生徒一人一人の心のケアをすることができた。このようにスクールカウンセリング・スペシャリストサポート事業の導入により重大問題のなる前にケアできており、また、カウンセラーより、専門機関への紹介をして頂き、連携が図れたことも大きかった。来年度以降も重要な事業となる。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>

12 来年度に向けての改善方策案

◎身だしなみに関しては、イエローカードを活用しつつ、シャツ出しなど細部に渡り、指導し続けていく。今年度、女子の制服を一新し、端正な身だしなみを指導の重点に置いてきたことを来年度も継続する。

◎ネットパトロールでの違反者は皆無であった。歩きスマホも見られなくなった。しかし、昼休みに使用している生徒が数名いた。さらに、今後の大きな問題として、LINEやInstagramなどSNSへの写真や動画の投稿や書き込みなどインターネットに関する問題は今後ますます大きな問題になっていくと思われる。情報モラルに関する教育を充実させ、生徒に正しい知識を伝え続けなければ、この問題は減少しないだろう。さらに、管理者である保護者の理解を得ることとその保護者が、インターネットに関する危険性を理解し我が子に対し、しっかりとした約束事(制限やルール)を確実に守らせるぶれない姿が重要である。

◎いじめ問題については、さらに生徒への「心の教育」の充実を図ることが重要である。SNSへの写真や動画の投稿、書き込みなど生徒自身が「何気ないこと」として行ったことが、相手には大きな心の傷になる場合があることや犯罪行為に発展する可能性があることなど、今後、計画的に教育していく必要がある。

◎H27年度、ユネスコスクールに認定され、今年度もボランティア活動にも積極的に取り組み、MSリーダーズを中心に地域活動に取り組んできた。このような実体験の中で当たり前のことを心を込めて当たり前に行える「凡事徹底」の精神を育む取組については次年度もさらに発展させていきたい。

◎教育相談においては、i-checkや、迷惑調査(年3回)を通して、迅速な対応ができるようになってきた。これまでの教育相談係、養護教諭による教育相談活動に加え、スクールカウンセラーの導入、さらに、スペシャリストサポート事業の活用(さらに専門機関との連携)は、職員の負担軽減とともに、対象生徒とその家族の安心感を生むなど、大きな成果として表れている。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月6日

【意見・要望・評価等】

- 課題を抱える生徒と親に対し、スクールカウンセラー等を活用して、きめ細かな指導を行っている。
- 新しい制服や体操服は、洗練された感じでちょっと都会的で上品で大人びた感じがして、ボランティア活動をしていて中学生とは違った高校生らしい雰囲気があり、素敵だなあと思った。地域活動や地域行事に参加する中で、きちんと挨拶ができる、任された仕事に一生懸命取り組む、わからないことは聞く、はきはきと答えるなど当たり前のことから、しっかりできていてよかった。保護者・生徒・学校・地域等の連携がうまく取れていて、みんなで生徒を育てている感じが良いと思う。
- 問題行動数が増え、先生方のご指導も大変なことと思う。特に、携帯・スマートフォン・動画などテレビでも連日アルバイト学生の異常な行動を報道されていて社会的にも問題となっている。
- 不登校の生徒や授業についていけない生徒についてどのようなご苦勞をされているか機会があればお聞きしたい。
- イヤホンの使用の自転車通学の様子が見かけられますので、事故が心配ですので指導をしてほしい。